

映画「第九条」（監督・脚本 宮本正樹）を見て

**考えよう！ 確かめよう！**

**憲法第9条の意味・意義**

20XX年時の総理大臣と内閣は、憲法九条の改正に踏み出す意思を明確にした。国民の意思を聞くために各年代に諮問委員会を作った。

メンバーはマイナンバーによる無作為の抽選により選ばれた十二人。諮問委員会は話し合いにより、全員一致の答えが求められる。

その結論の総計により、政府は方針を決定するとしている。

憲法九条は破棄か？維持か？

2016年制作のこの映画は、こんな↑言葉で始まります。映画で描かれるのは「抽選で選ばれた」20代の十二人の話し合い。十二人が「九条」について破棄か維持か、全員一致の結論が出るまで議論をぶつけ合います。彼らの出す結論がどうなるか、白熱する議論は最後まで目が離せません。

「十二人」「全員一致の結論」というのは、映画「12人の怒れる男」「十二人の優しい日本人」でおなじみです。議論が白熱するのも同じで、映画としても良くできていると思います

ちなみにこの映画は岐阜ではまだですが、各地の映画館で上映されています。

と き 5月13日（土） 午後2時～4時30分ごろ

ところ 島公民館研修室（島小学校体育館1階）

主催 島中学校区九条の会

問い合わせ先 058-231-5293(井川)

**※入場は無料です カンパ大歓迎です**